



TITLE:

水族館

AUTHOR(S):

CITATION:

水族館. 瀬戸臨海実験所年報 1988, 2: 9-10

ISSUE DATE:

1988-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178825>

RIGHT:

水族館

1986年中の水族館活動はほぼ例年通りで、展示水槽の配置とその内容も、淡水魚水槽の増設を除き、前年と同様である。本年中の主なできごとは次の通り。

1) 業務分担の部分的変更：当館の担当者は総勢7名という少数にもかかわらず、その業務内容は次表のように、かなり固定的であった。

担当者名	主な業務内容
荒賀助手	学芸員・技術系館務の総括
田名瀬技官	〃 ・採集・飼育
榎山技官	機械
太田技官	飼育・採集
津越技官	電気
山本(泰)技官	飼育・採集・解説板
山本(善)技官	船舶・兼務で機械・飼育

大型水槽の清掃・大規模な採集などの特別な業務には、全員または必要な人員が協力して従事してきたが、日常業務においては、各セクション間の意志の疎通が不十分であった。また、各水槽のチェック・餌料調理と給餌などの仕事が集中する8:30~10:00の時間帯では、飼育専任者の業務がとくに過重であった。

このようなセクショナリズムを排し、全員が水族館の業務全搬にわたる理解を深めて、より能率的に仕事をこなせるよう、3月10日より、次のような3班編成による業務分担を開始した。

日課班編成表

調理給餌班 観測機械班 補助班

1 田名瀬・榎山 太田 荒賀・山本

2 榎山・太田 荒賀 山本・田名瀬
 3 太田・荒賀 山本 田名瀬・榎山
 4 荒賀・山本 田名瀬 榎山・太田
 5 山本・田名瀬 榎山 太田・荒賀

* この編成による業務分担は全員が出揃う日曜~水曜に実施し、番号順に回転する。

* 宿直明け・休暇等で欠員が生じた場合は、後続の者が順次繰上って埋める。

* 山本(善)・津越両技官は業務内容上、この編成には入らない。

年末までの試行の結果、この班編成は館務の円滑化に有効と思われるので、今後も続行する予定である。

2) 第1水槽室恒温装置の修理：昨年末に故障したヒートポンプ冷却器は、6月20日に更新された。腐蝕が著しかった冷媒配管や凝縮器まわりの配管も取替え、本機は復旧。11月以降の加温運転は順調である。

3) 淡水コーナーの改装：本年度に持越された第3水槽室321号水槽の改造と322~324号水槽の増設は7月15日に完成。これで淡水コーナーの改装は完了した。その内容は別項技術報告の通りである。

4) 富田川の大動物相調査：上記の改装（地元産淡水生物の展示）に関連して、当館に最も近い富田川水系の生物相を把握するため、10月中旬より年末まで、源流域から河口域までの本流および主な支流において、魚類を中心とする調査を行った。



「紀南の淡水生物」コーナー(北側の増設部分)



同コーナー (南側の既設水槽内部改装部分)